



加藤 元の



と暮らしてみませんか

49

連載も最終回を迎えました。最後に「ペットと暮らしてみませんか」と提案してきた私の今の思いをまとめましょう。

日本ではこの三、四十年、いじめや家庭内外の暴力、不登校、あげくの果ては、子供たちによる傷害や殺人事件、さらには、親の子供に対する虐待やネグレクト、殺人などがエスカレートしています。なぜでしょうか。

真の原因は？合理的な対策は？この間、千人千様の論評が生まれてきましたが、効果的な具体策はなかったように思います。私は「プロブレム・オリエンテッド・システム」（あらゆる問題解決のための論理的な考え方）を導入し、子供たちにわかりやすく伝えていくことが、その具体策の第一歩と考えます。

命の教育下

「思いやりの心」育てたい

そのためにはまず、大人が子供たちに、日本の教育の「問題点」例えば、受験のためだけの教育や、理系と文系に分けることの愚など、を論理的に明らかにすることです。

そのうえで、文明先進国が競って、防衛という名の下に、武器や兵器を開発し、その究極的なものが人類史上初の原子爆弾の発明と使用であったことなどを説明し、戦争をすることが「人類の究極の悪」であることを伝えることです。そして、「人と動物と自然」を大切にする児童教育を実行し、暴力的なゲームの製造や販売を禁止することなども必要と考えます。

また、「命の大切さ」を体感・体得できる、さらに他人の命・人生の大切さがわかる教育を、幼稚園から行い、小・中学校の教育では、必修の教科の一部にするべきだと信じています。なぜなら将来を担うのは子供たちなのですから。

「ヒューマン・アニマル・ボンド」(HAB)を推進するNPO法人「J・HABS」では、「人と動物と自然を大切にする教育」のインストラクターを通信講座で養成しています。子供たちの「思いやりの心」を育て、世界の将来の教育・福祉・医療の保全などに役立てていきたいと願っています。

(ダクタリ動物病院広尾病院院長、日本ヒューマン・アニマル・ボンド・ソサエティ会長)

《産経新聞2005年3月27日掲載》